

## 後輩にもぜひ

九州工業大学 小林 史典

### 目がかがやいている！

「お、みんな、目がかがやいているな」：7月末、クラスでみなさんに会ったときの第一印象です。

講義を一所懸命聴き、実験も、もう終りにしよう、と私たちが止めるまで、好奇心一杯で取り組んでいました。そしてフォローアップ講座では、アドバイスを、まさに砂が水を吸い込むように受け止めてくれましたね。

そうした姿勢が、素晴らしいレポートに結実しました。

このように、本当に若いときに思いがけない力が発揮できることは、今回の講座の最後で、ノーベル賞受賞者の江崎先生も話されていました。

「分別力は年令とともに増すが、独創力は若いときの方がある」という言葉です。みなさんの年代のときに、今回のような、日頃の生活とはかけはなれた環境の中で何かをした経験は、将来、どんな道に進むにしても、大きな財産になると思います。

### 大学にもいい刺激

こうした講座には実は、大学で中学生を受入れるのは負担では？という異論があります。しかし私たちは、十二分にメリットがあると感じています。

メリットの第一は、最初に書いたように、前向きな生徒を教える楽しさです。出前講義やオープンキャンパスでときどき接する高校生にも、まして毎日教える大学生にも、今回ほど一所懸命な姿勢を感じたことはありません。とても気持ちのよい経験でした。

そして第二のメリットは、逆説的ですが、「負担」だからこそ意義がある、ということです。中学生は、大学生のような基礎知識を持っていません。そこで、本質をやさしく伝えなければならず、その方法を考えることは、大学の教員にとって、とてもいい勉強の機会になるからです。

たとえば今回、フォローアップ講座で質問を受け、その場のとっさの思いつきで「こう考えたらどうか」と回答しました。それを大学に戻って紹介したところ、「それはいい説明法だ。今度講義で使おう」という反応がありました。中学生でも、いや中学生だからこそ、大学を変えうるのです。

こんな機会はめったにありません。今回参加されたみなさんは、みずみずしい感性で今後も元気に勉強して、できるだけ多く科学技術の道に進んでほしいですし、後輩に来年以降の参加を奨めてもらえれば、大変うれしく思います。